

緊急度判定(院内トリアージ)

I、目的

- 1、よりよい救急医療の提供によって患者・家族のニーズに適時的に応え、医療満足度を向上させる。
- 2、施設の人的資源、物的資源を最大に活用し、適切な医療を提供する。
- 3、治療の優先順位を決定し、患者の生命を救い、社会復帰率を向上させる。
- 4、救急患者全体の診療がスムーズに流れ、患者や医療者の混乱を防ぐ。

II、必要物品

- 1、JTAS2023 緊急度判定支援システム
- 2、問診票
- 3、タイマー

III、方法

1、手順及び準備

- ① 事務より問診票および会計表が届き、内容を確認する。
- ② 15 分以内に患者のところへ行き、情報収集する。
 - 1) JTAS 支援システム(iPad)を使用し 5 段階評価をする。
 - レベル 1－蘇生(青) コードブルー。初療室にて直ちに介入
 - レベル 2－緊急(赤) 15 分以内の診療・再評価
 - レベル 3－準緊急(黄) 30 分以内の診療・再評価
 - レベル 4－低緊急(緑) 60 分以内の診療・再評価
 - レベル 5－非緊急(白) 120 分以内の診療・再評価
 - 2) 問診票に区分したレベルと評価時間を問診票へ記入し、リーダーへ報告する。
 - 3) レベル 1・2 と判断した場合、速やかに初療室へ誘導し、担当医師へ報告する。レベル 3・4・5 の場合、待合室で待機。何か状態変化があった場合は速やかに報告するよう本人・付き添い者へ説明する。
 - 4) レベル 3・4・5 の場合、30 分毎に再評価を実施。リーダーへ報告する。
 - ・患者ファイル内にトリアージ棒を挿入(色別)。タイマーを使用し再評価する。
 - 5) 患者に状態変化があった場合は、その都度評価し対応する。
 - 6) 再評価するスタッフは原則、初回評価者が望ましい。勤務者間で患者の情報共有をする。再評価した場合も、区分レベルと評価時間・スタッフ名を記入する。
 - 7) 看護記録に院内トリアージの内容を記載する。
 - トリアージ時間・内容・再トリアージ等

IVその他

- 1、毎月の外来会議で事例報告とし振り返る。

作成担当 救急センター／看護部／作成 2016/6/4

改訂 2018/9/1

改訂 2020/4/1

改定 2025/4/1